

学校保健

(題字は元北海道学校保健会会長 吉田 信)

発行

公益財団法人北海道学校保健会

札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会館5F

☎(011) 221-5240



子どもたちの健やかな成長を願って

北海道学校保健会 副会長

北海道中学校長会 筆頭副会長

高橋 正幸

今、教育現場は様々な課題を抱えつつ、日々、子どもたちの成長に向けて各学校を中心に教育活動を推進しています。その教育現場において、子どもたちが心身ともに健やかであることは、たいへん重要な意味をもっており、健やかな日々があるからこそ、子どもたちが伸び伸びと成長することができます。そして、その環境を整えていくのは学校現場の役割でもあります。この「健康」に関わっては、各医療機関・医療関係者の皆様をはじめ、子どもたちの「健康」に関わってくださっている全て皆様に、あらためて感謝申し上げます。

さて、教育現場における課題の一つに、不登校生徒に対する支援があります。「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(令和7年10月29日)において、不登校児童生徒数は約35万人と過去最高となっており、極めて憂慮すべき状況となっています。また、同調査において、北海道では14,252人の不登校児童生徒が報告さ

れております。

北海道中学校長会においても、今後の不登校対策及び学校経営の充実に向けて、「北海道内中学校における不登校の実態と支援の現状」に関する実態調査を実施し、現在、まとめを進めております。不登校の背景要因としては、生活リズムの乱れ、家庭生活上の課題、友人関係、学業不振など、単一の要因ではなく複数の課題が重なっているケースが多く、教育・福祉・医療を含めた包括的なアセスメントが重要です。今後も関係機関との連携を図り、関係機関相互の役割を明確にしながら、継続的な情報共有と連携体制を強化していく必要があります。

最後に、今後も北海道の未来を担い、自ら切り拓いていく子どもたちの健やかな成長を願って、北海道学校保健会の皆様や関係者の皆様とともに、歩を進めてまいりたいと思っております。

目次

○巻頭言 「子どもたちの健やかな成長を願って」

北海道学校保健会副会長・北海道中学校長会筆頭副会長 高橋 正幸 …… 1

○令和8年度学校保健功労者表彰受賞者の紹介 …… 2

○保健室シリーズ 「『その先』の生きる力を育む

～小規模校における包括的性教育とピアサポートの実践～」

泊村立泊中学校 養護教諭 老田 有理沙 …… 4

○令和7年度公益財団法人北海道学校保健会事業報告・決算報告 …… 7

令和8年度 学校保健功労者表彰 受賞者の紹介

この表彰は、本道の学校保健（学校安全を含む）の振興に功労のあった学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教職員などの学校保健関係者及び団体を北海道学校保健会が表彰して、その功労に報い、もって本道学校保健の推進に寄与しようとするものです。

令和8年度は、関係機関から78名の推薦がありました。審査、選考の結果、下記の学校医29名、学校歯科医28名、学校薬剤師16名、教職員5名の計78名の方が受賞の栄誉に輝きました。永年にわたって本道の児童生徒の健康保持増進のためにご尽力くださいました受賞者の皆様には深く感謝の意を表します。

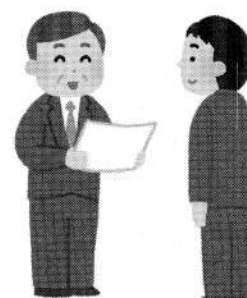
(敬称略)

職 名	氏 名	勤務(担当)校	職 名	氏 名	勤務(担当)校
学校医	出村 守	札幌市立東光小学校	学校医	石 崎 彰一	函館市立高丘小学校 ほか1校1園
〃	渥美 進一	札幌市立澄川小学校	〃	木村 昌嗣	北斗市立大野小学校 ほか1校
〃	坂田 信義	札幌市立西岡北中学校 ほか4校	〃	早瀬 章	北斗市立久根別小学校
〃	小西 正訓	札幌市立西野中学校 ほか4校	〃	渋谷 好孝	北斗市立浜分小学校
〃	児玉 広幸	札幌市立清田小学校 ほか5校	〃	安藤 淳	室蘭市立翔陽中学校
〃	田屋 登康	旭川市立光陽中学校	〃	鈴木 彩	室蘭市立みなと小学校
〃	橋爪 弘敬	旭川市立豊岡小学校	〃	野見山香奈子	北見市立学校
〃	澤井 仁郎	帯広市立帯広第五中学校	〃	木内真理子	釧路市立鶴野小学校
〃	石川 忠孝	帯広市立明星小学校 ほか2校	〃	鈴木 靖人	釧路市立昭和小学校
〃	山崎 茂	江別市立大麻泉小学校 ほか1校	〃	瀬ノ田明範	小樽市立花園小学校
〃	小川 孝	江別市立大麻東中学校 ほか1校	学 校 歯科医	永山 和典	札幌市立北九条小学校
〃	岡田 宏満	恵庭市柏陽中学校	〃	松村 芳明	札幌市立東栄中学校
〃	森川 清志	岩見沢市立光陵中学校	〃	星井 進	札幌市立北園小学校
〃	得地 史郎	岩見沢市立上幌向中学校	〃	池田 潤	札幌市立篠路小学校
〃	出口 靖	岩見沢市立中央小学校	〃	藤田 一雄	市立札幌旭丘高等学校
〃	金井 哲伸	岩見沢市立北真小学校	〃	水口 隆介	富良野市立富良野小学校
〃	岡田 優二	根室市立北斗小学校	〃	糸坂 直志	旭川市立永山西小学校
〃	竹内 克呂	留萌市立港南中学校 ほか1校	〃	今富 収治	旭川市立末広小学校 ほか1校
〃	藤寄 泰利	北海道七飯養護学校	〃	矢口 享史	旭川市立永山南中学校 ほか1校

職 名	氏 名	勤務(担当)校	職 名	氏 名	勤務(担当)校
学 校 歯科医	田代 健一	士別市立士別南中学校	学 校 薬剤師	荻野 修	札幌市立篠路中学校
〃	近江 利久	帯広市立豊成小学校 ほか1校	〃	奥村 康子	札幌市立北陽小学校
〃	國安 宏哉	帯広市立帯広第四中学校	〃	加藤 亮子	札幌市立栄西小学校
〃	村西京一郎	帯広市立明和小学校	〃	川口 向司	札幌市立発寒小学校
〃	西谷 昌泰	北広島市立西部中学校	〃	佐藤 麻子	札幌市立簾舞小学校
〃	渡辺 寿幸	岩見沢市立東小学校	〃	富樫 誠治	札幌市立苗穂小学校
〃	古内 悦英	函館市立南茅部小学校	〃	新田 玲子	札幌市立藤野小学校
〃	鈴木 均史	北斗市立市渡小学校	〃	日沼 紀之	札幌市立石山中学校
〃	丸子 修史	北見市立北光小学校	〃	三上 美生	札幌市立新発寒小学校
〃	廣瀬 豊隆	紋別市立南丘小学校	〃	松野 宏治	旭川市立西神楽小学校
〃	齊藤 望	紋別市立渚滑小学校 ほか2校	〃	幸村 亮太	室蘭市立海陽小学校
〃	高橋 賢一	紋別市立潮見中学校	〃	袖田 浩司	伊達市立東小学校
〃	玉川 博文	美幌町立美幌小学校	〃	中里 光成	伊達市立伊達西小学校
〃	佐藤 仁彦	釧路市立景雲中学校	〃	谷向 充哉	釧路市立景雲中学校
〃	大澤 正幸	釧路市立阿寒小学校	〃	帯刀 嘉弘	倶知安町立西小学校
〃	山口 國春	釧路市立音別義務教育学校	教職員	渡辺 一生	札幌市立あいの里西小学校
〃	本間 敦	釧路市立鳥取小学校	〃	宮崎 真紀	札幌市立前田小学校
〃	岡田 実継	釧路市立北中学校	〃	櫻井 洋子	釧路市立朝陽小学校
〃	氏橋 潤一	標茶町立標茶小学校	〃	清水 和美	釧路市立青陵中学校
学 校 薬剤師	石川 多香	市立札幌北翔支援学校	〃	石渡 幸湖	北海道釧路東高等学校

今年度の学校保健功労者表彰を受賞される皆様につきましては、令和8年10月18日に開催される第73回北海道学校保健・安全研究大会後志（倶知安）大会の中で行われる表彰式で、公益財団法人北海道学校保健会の松家会長より表彰楯が授与されます。

また、当日欠席される皆様におかれましては、それぞれが勤務しております学校又は市町村教育委員会より表彰楯が渡されます。



保健室シリーズ

「その先」の 生きる力を育む ～小規模校における 包括的性教育と ピア・サポートの実践～

泊村立泊中学校

養護教諭 老 田 有理沙

1 はじめに

泊村は、北海道西部の日本海沿岸に位置し、積丹半島の付け根に広がる自然豊かな村です。古くから漁業を中心に発展してきました。また、北海道で唯一の原子力発電所があることでも有名です。

泊中学校は、全校生徒20名の生徒が通う小規模校です。晴れた日の夕暮れ時には、海面がオレンジ色に染まり、水平線へ沈む美しい夕日を校舎から望むことができます。



2 地域の実態について

本校は小規模校であるため、生徒同士が幼少期から互いをよく知る関係の中で学校生活を送っています。こうした環境は、安心して過ごせる人間関係が形成されているという強みがある一方で、集団が小さいがゆえに人間関係や役割が固定化しやすく、新たな人間関係を築いたり、異なる価値観をもつ相手と関わったりする経験が限られるという側面もあります。

また、本地域では、中学校卒業後に地元を離れ、高校へ進学する生徒も多くいます。これまで築い

てきた人間関係や家族から離れ、より大きな集団の中で新たな人間関係を築いていく生徒たちに、環境の変化に臆することなく人と関わり、自分自身や他者を大切にしながら、互いに支え合うことのできる力を身につけて卒業してほしいという願いがあります。親元を離れて生活すると、これまで身近にいた家族にすぐに相談することが難しくなることも考えられます。そのため、自分の心や体に起こることを自分自身で捉え、危険や困りごとから守るとともに、必要なときには信頼できる人や適切な機関に相談し、自ら助けを求めることのできる力も身につけてほしいと考えました。

そこで本校では、自分の心と体を守るための知識や判断力、自己決定力を育む包括的性教育と、自己理解・他者理解を深め、互いに認め合い支え合う関係づくりを目指すピア・サポートを関連付けて実践しました。これらの一連の学びを通して、自分も相手も大切にしながら、人とつながり、支え合う力を育むことを目指し実施しています。

(1) 包括的性教育の取り組みについて

本校では、各学年で年に2回、3年間を通して計7時間の性教育を実施しています。本校で実施している内容を以下に示します。

	1 時間目	2 時間目
1 年生	プライベートゾーン 性被害	生命の誕生 (外部指導者)
2 年生	適切な交際について	性の多様性
3 年生	性感染症	望まない妊娠

限られた時間の中で扱う内容が多岐にわたるため、個々のテーマを十分に深めたり、生徒の理解や気づきを確かめながら学習を進めたりすることが難しいという課題があるものの、生徒たちは興味関心を持ちながら授業を受けてくれています。今回は1つの授業を紹介させていただきます。

① 適切な交際についての指導

2年生では、「適切な交際について」をテーマに、人との距離感について考え、それをデートDVにつなげる授業を行いました。導入では、1年生で

学んだ「相手が嫌だと感じる性的な行為は、性被害につながる」という視点を、日常の人間関係にも広げ、自分にとっては「OK」であっても、相手にとっては「NG」と感じることもあり、それぞれに異なる境界線があることに気付くことをねらいとし、「あなたにとってそれはOK? NG?」という5問のアンケートを実施しました。

- Q1：筆記用具を忘れたから貸して欲しい
Q2：ハンカチを忘れたから貸して欲しい
Q3：友達がスマホの画面を覗きこんでくる
Q4：友達が頭を撫でたり腕を組んでくる
Q5：自分の飲み物を友達に飲まれる

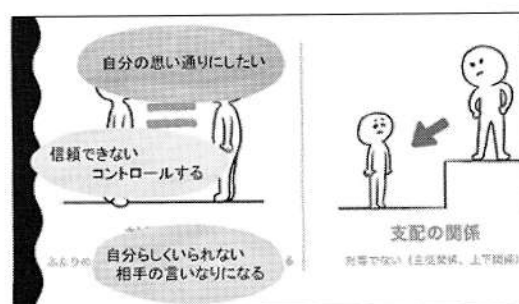
質問が進むにつれて「NG」と答える生徒が増え、同じ行動でも感じ方は人によって異なることを確認しました。本校は小規模校であり、友人同士の距離が近い場面も多いため、交際について考える前に、まずは日常の人間関係におけるバウンダリーに目を向けることが必要だと考え、この活動を取り入れました。

また、バウンダリー（境界線）が侵害されそうなときには、「嫌だ」と伝えてよいこと、相手から「嫌だ」と言われたときには、その意思を尊重してやめることが大切であることを確認しました。

展開では、動画教材を活用して性的同意について学び、「性的なふれあいの一つひとつに同意が必要であること」「沈黙やあいまいな返答は同意ではないこと」を確認しました。さらに、①気持ちはその日によって変わってもよいこと、②嫌なときには「嫌」と言ってよいことを押さえ、互いの意思が尊重される「対等な関係」が大切であることを伝えました。

ここまでの学習を踏まえ、「対等な関係を築くためには、どうすればよいか」を生徒に考えてもらおうと、「相手の気持ちを知る」「お互いの意見や考えを尊重する」などの意見が出されました。対等な関係について考えた後、一方で「自分の意見が言えない」「相手の機嫌を気にしてしまう」など、自分らしくいられない関係を「支配の関係」と捉えさせ、このような関係はデートDVにつな

がりやすいことを説明しました。



展開の後半ではデートDVの基本的な説明や、暴力の4つの種類の確認をしました。デートDVにはサイクルがあり、デートDVというものがあるのか分からなければ、自分が被害者・加害者になっていることに気づけないことがあるということを確認し、知識があることで自分自身や大切な人を守ることが出来るということを話しました。

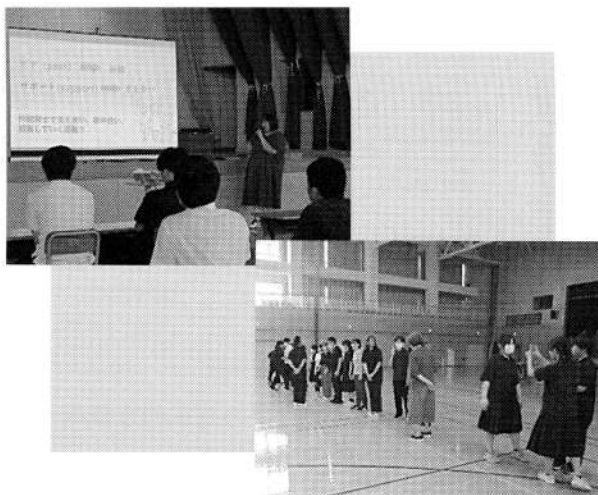
最後のまとめは、キーワードをいくつか用意し自分自身で「適切な交際とは～」に続く文章を考えてもらいました。生徒からは「嫌だがきちんと言える関係」「話し合いがしっかりできる関係」などのまとめが出て、全体交流が深まりました。

(2) 全校ピア・サポートの取り組みについて

本校では、年3回、全校でピア・サポート活動を実施しています。本校には、水曜日に25分間の放課後タイムという時間があり、その時間を活用するほか、授業時間として1～2時間を確保するなど、活動内容に応じて工夫しながら実施しています。

活動内容は毎年異なりますが、異学年交流を中心としたものを取り入れています。小規模校であるため、生徒同士は幼い頃から互いを知っていますが、普段とは異なるメンバーでグループをつくることで、新たな一面を知ったり、互いの理解を深めたりする機会となるようにしています。また、教職員も積極的に活動に参加し、学校全体が温かく安心できる雰囲気となることを目指しています。

7月には、今年度1回目のピア・サポートを実施しました。2・3年生は昨年度から継続して活動に参加していますが、1年生にとっては初めて



の活動であるため、はじめにピア・サポートの概要を説明しました。その後、教職員も交えて全校で「じゃんけん列車」のアイスブレイクを行い、活動グループを決めました。

【ワーク①話の聞き方】

はじめに、話の聞き方について考えるペアワークを行いました。話し手と聞き手に分かれ、最初は話し手に聞き方を知らせず、聞き手が腕を組んだり、ため息をついたりするなど、良くない話の聞き方をしました。活動後には、「話しづらかった」「話してよいのかなと思った」などの感想が聞かれました。

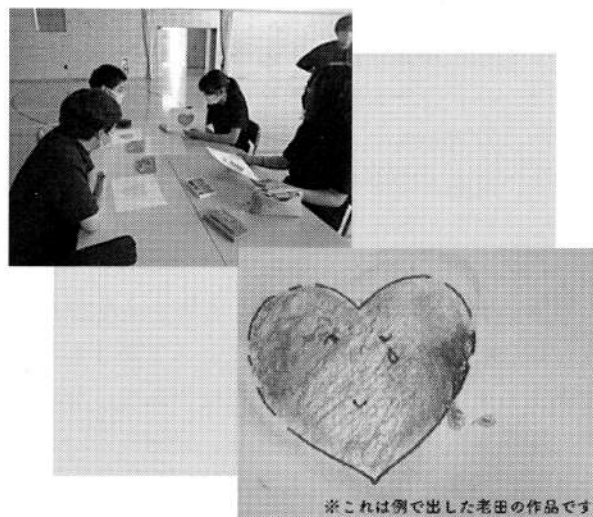
次に、聞き上手になるためのポイントとして「FELOR」を確認し、そのポイントを意識して話を聞く活動を行いました。すると「話して楽しかった」「うれしかった」など、先ほどとは異なる感想が聞かれ、聞き方によって話し手の気持ちが大きく変わることを体験的な学びとして捉えることができました。

【ワーク②私のハート】

後半は、「私のハート」というワークを4人グループで行いました。自分の内面にある感情や気持ちを色で表現し、それをグループのメンバーに説明します。その後、メンバーからポジティブなフィードバックを受け、自分自身の気づきや感想を共有するという活動です。

このワークでは、自己開示を通して他者理解や

自己理解を深めることをねらいとしています。また、前半のワークで学んだ「FELOR」を意識して、相手に関心をもちながら話を聞くことも大切になります。自分の思いや考えを受け止めてもらい、肯定的なフィードバックを受けることで、自分自身では気付かなかった一面を知り、自己理解を深める機会にもつながりました。



【ピア・サポートの感想や成果】

授業後の振り返りでは、88%の生徒が「楽しい」と感じるなど前向きな気持ちが向上しました。また、「相手の話をじっくり聞く楽しさに気付いた」「人の知らない良い面を知ることができた」「伝えることが大切だと感じた」などの感想もあり、本活動を通して、相手との関わり方について考えを深めることができました。

3 おわりに

今回の実践には、明日からの生活の中で生かすことのできる学びもあれば、高校生や大人になってから、その意味や大切さに気付く学びもあると考えています。今、目の前にいる中学生に向けて授業を行っていますが、卒業後、それぞれが新たな環境で人と関わり、悩んだり困ったりしたときに、「あのとき学んだ！」と、この時間を思い出してくれたらうれしく思います。

生徒たちの「その先」の人生に、いつか小さな力となることを願いながら、これからも一つ一つの学びを大切にしていきたいと思います。また、今後も授業だけでなく日々の関わりを通して生徒たちと向き合っていきたいと思います。

令和7年度 公益財団法人 北海道学校保健会事業報告

【運営会議】

- 07.5.24 第1回理事会
- 07.6.29 第1回評議員会
- 07.7.1 第2回理事会（書面開催）
- 08.2.14 第3回理事会
- 08.3.14 第2回評議員会

第1 専門医健診推進事業

学校の児童生徒の健康診断において専門医（眼科・耳鼻咽喉科）の確保が困難な教育委員会に対し、北海道教育委員会、北海道医師会、北海道眼科医会、北海道耳鼻咽喉科医会の協力を得て専門医の紹介を行い、児童生徒の健康の保持増進に努めた。

【眼 科】9町村 37校 1,158人

喜茂別町、苫前町、初山別村、利尻富士町、利尻町、礼文町、津別町、湧別町、別海町
○小学校19校 581人、中学校15校 343人
義務教育学校 3校 234人

【耳鼻咽喉科】10市町村 27校 1,045人

石狩市、喜茂別町、苫前町、天塩町、羽幌町、猿払村、浜頓別町、枝幸町、幌延町、湧別町
○保育園 1校 5人、小学校12校 574人
中学校8校 315人、義務教育学校4校 140人
小中併置校2校 11人

第2 研究啓発事業

1 北海道学校保健研究大会

（日本学校保健会委委託事業）

各関係団体と連携して主催し、第72回北海道学校保健・安全研究大会釧路大会の充実に努めた。学校・家庭・地域社会が連携し、課題解決を図るべく研究会を開催した。講演会を開催し、部会別協議を通して、児童生徒の健康の保持増進に貢献した。

日時／令和7年10月26日（日）

会場／釧路市 釧路市生涯学習センター

まなぼっと幣舞

主題／「生涯を通じて、心豊かにたくましく北の大地を生きる子供の育成を目指して」
～二つの国立公園に抱かれた釧路から
力強く生きる子どもの未来に向けて～

第3 普及発展事業

1 広報活動事業

本道の学校保健の充実発展を図るため、会報「学校保健」を年3回発行し、当会の活動内容の周知及び各種学校保健活動を紹介し、学校保健思想の普及発展を図った。

- ・第126号（6月30日発行）
- ・第127号（9月30日発行）
- ・第128号（1月31日発行）

2 学校保健資料収集配布事業

公益財団法人日本学校保健会刊行物の配布

- ・道、市町村教委、公立小、中、中等、特別支援学校へ配布。高等学校は直送。

第4 顕彰奨励事業

本道の学校保健（学校安全を含む）の振興に功労のあった学校保健関係者の個人を表彰し、その功労に報い、もって本道の学校保健の進展に寄与した。

北海道学校保健・安全研究大会釧路大会において表彰式を行った。

- ・学校医38名、学校歯科医25名、学校薬剤師20名、教職員5名の合計88名

第5 教育支援事業

本道の学校保健（学校安全を含む）の充実を図るため、保健指導用資料を作成し、児童生徒の健康保持増進に寄与した。

- ・保健指導用資料「みんなの保健」を2万冊作成し、希望する道内の各種学校へ16,086冊を届けることができた。

令和6年度 59校 8,718冊

令和7年度 33校 7,368冊

《 内 容 》

- 生活リズムを整えよう
- 睡眠・運動・食事
- むし歯を防ごう
- 目の健康
- 耳・鼻の健康
- 心の健康
- お酒・タバコ・危険な薬物
- デジタルリテラシー
- 自分らしさ
- 生活習慣病・がん

（北海道学校保健会のHPで見ることが出来るよ）



令和7年度 公益財団法人 北海道学校保健会決算報告

収 支 計 算 書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
【事業活動収支の部】			
事業活動収入			
①基本財産運用収入	5,574,900	5,574,956	
基本財産利息収入	5,574,900	5,574,956	社債、公債、定期預金
②事業収入	1,260,000	1,123,800	
受託事業収入	200,000	200,000	日本学校保健会より
受取負担金収入	1,006,000	923,800	会報、功労者表彰
③雑収入	4,016	8,748	
受取利息収入	648	8,748	普通預金利息等
雑収入	3,368	0	原稿執筆料
事業活動収入	6,838,916	6,707,504	
事業活動支出			
①事業費	3,666,494	3,567,699	
給料手当	1,186,704	1,186,704	給料手当
福利厚生費	193,553	190,888	社会保険料
旅費交通費	46,000	51,640	研究大会等参加旅費
通信運搬費	100,000	81,122	文書送料、郵券
消耗品費	10,000	2,271	
印刷製本費	700,000	665,617	会報等
委託料	300,385	300,385	研究大会
賃借料	366,852	366,852	事務所借上、清掃料
諸謝金	18,000	12,000	会報原稿謝金
会議費	17,000	15,990	専門医健診打合せ
報償費	728,000	694,230	功労者補代、専門医助成
②管理費	3,172,422	3,222,945	
委託料	400,070	400,070	会計事務所、HP
給料手当	1,027,296	1,027,296	給料手当
福利厚生費	167,130	153,060	社会保険料
会議費	7,000	4,222	役員会等
旅費交通費	190,000	162,680	役員会等
通信運搬費	270,000	251,591	文書送料、電話料金等
消耗品費	20,000	15,009	事務用品消耗品
印刷製本費	30,000	34,517	コピー機交換、用紙等
賃借料	317,568	317,568	事務所借上、清掃料
租税公課	70,000	70,000	法人道民・市民税
支払負担金	640,000	628,645	日学保拠出金等
雑 費	33,358	158,287	残高証明ほか
事業活動支出計	6,838,916	6,790,644	
事業活動収支差額	0	-83,140	
当期収支差額	0	-83,140	
前期繰越収支差額	2,825,772	2,825,772	
次期繰越収支差	2,825,772	2,742,632	

賃 借 対 照 表

令和8年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
普通預金	2,792,246	2,875,386	△ 83,140
定期預金	0	0	0
未収入金	0	0	0
有価証券	0	0	0
流動資産合計	2,792,246	2,875,386	△ 83,140
2 固 定 資 産			
(1) 基本財産			
定期預金	44,981	44,981	0
投資有価証券	202,655,019	202,655,019	0
基本財産合計	202,700,000	202,700,000	0
(2) 特定資産			
その他の特定資産	1,397,000	1,377,000	20,000
特定資産合計	1,397,000	1,377,000	20,000
(3) その他の固定資産			
什器備品	37,514	37,514	0
その他の固定資産	37,514	37,514	0
固定資産合計	204,134,514	204,114,514	20,000
資 産 合 計	206,926,760	206,989,900	△ 63,140
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債	0	0	0
未払い金	0	0	0
預り金	0	0	0
流動負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1 指 定 正 味 財 産			
募 金	1,397,000	2,357,000	20,000
公益事業準備基金取崩			
指定正味財産合計	1,397,000	1,357,000	20,000
(内特定資産への充当額)	(1,397,000)	(1,357,000)	(20,000)
2 一 般 正 味 財 産	205,529,760	205,612,900	△ 83,140
(内特定資産への充当額)	(202,700,000)	(202,700,000)	0
正 味 財 産 合 計	206,926,760	206,989,900	△ 63,140
負債及び正味財産合計	206,926,760	206,989,900	△ 63,140

